



TITLE:

龍に因める星座の話

AUTHOR(S):

水野, 千里

CITATION:

水野, 千里. 龍に因める星座の話. 天界 1940, 20(228): 233-237

ISSUE DATE:

1940-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167970>

RIGHT:

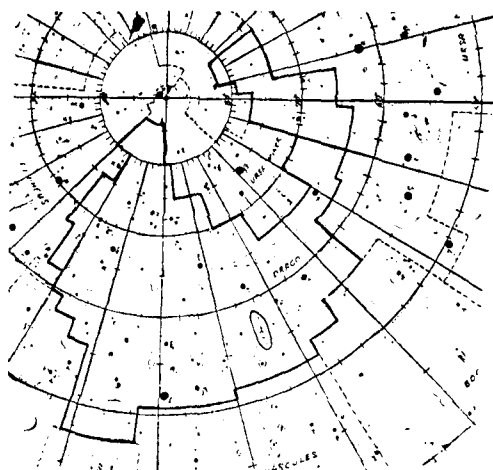
龍に因める星座の話

(倉敷天文館主事 水野千里)

皇紀二千六百年は庚辰に當ります。因て、龍に因んだ星座、即ち「龍」、「龍骨」の二星座と「辰」「蝎」星座(蒼龍の星座)との三星座について記しませう。

龍の星座

龍星座の神話 この龍は、ギリシヤ神話に、ヘスペリデスの園の黄金の林檎を護つた火龍です。女神ヘーラが大神の正妃となつた時に、この林檎を他の女神たちから贈られたので、巨人アトラスの娘にこれを護らせ、更に一匹の火龍にも張り番させて置きましたが、ヘルクレスの爲めに、林檎を奪はれました。林檎を守つて居た火龍が星々の輝やく天に置かれたのが、この龍座です。因に、黄道の北極はこの星座にあ



(座星の龍)

ります。ガマ星はグリニチ天文臺の殆んど眞上に位置して居るので、英國の天文家の間には、之れが「天頂の星」と呼ばれて居ます。

首星アルファ星　この星は現今四等星であるが、以前は二倍の光度であつたらしく、西曆前三五〇年エジプト大ピラミッド建設當時の北極星で、支那名を右樞といひ、有名なものです。地球の赤道面が黄道面と一致して居ないので、地球が廻轉楕圓體である爲めに、地球上で赤道の北極が、黄道の北極の周圍を約二五八〇〇年で一週します。此のため、春分點が黄道上を一年間に約五〇秒だけ逆行（東から西へ）します。これ等の現象を歳差といひ、紀元前二世紀頃、ギリシヤの天文學者ヒパルコスによつて初めて發見されたものです。

龍星座に因む詩歌

ぐるぐるど　小熊をかこむ　龍星座　北極星を　奪はんとてか

尙書——尙書星五箇列位自森然只令勤王事嘉猷奏九天

太乙——太乙何精在唯知秀氣鍾千秋有劉向獨與此神逢

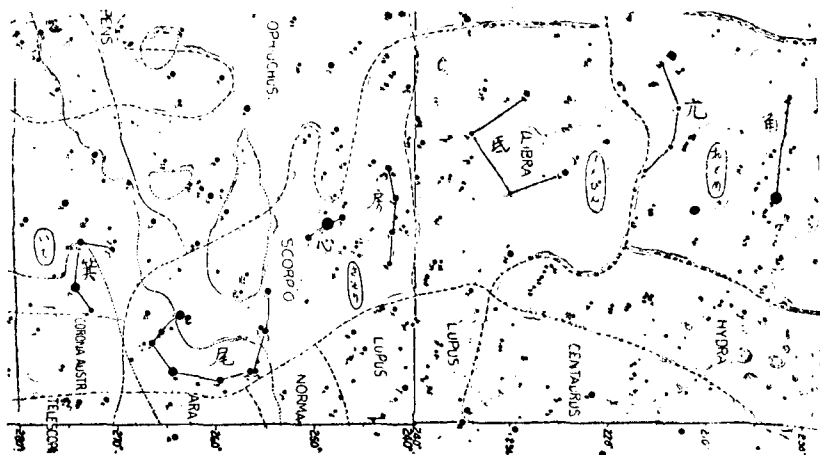
天柱——天柱五星列由來主五行馳光輝晦朔示衆理陰陽

紫微垣——常釋天何處我聞維紫垣皇宸箇中在萬古麗乾元

支那天文の「龍」

參と商との喧嘩の話

オリオン星座の中央にある三つ星が二十八宿の中の「參」宿ですし、又、蝎星座の「心」宿は、俗に「商人星」といひます。この參と商とは元もと兄弟でしたが、性來の亂暴者で、争鬭を好むばかりでなく、兄弟の仲が至つてわるく、常に喧嘩の絶間がなかつたので、天神様もこれを持て餘した結果、兄の參を冬の天に、弟の商を夏の夜の天に輝く星座に追ひやつて、二人を永久に逢はせない事にしました。支那の古諺に物の表裏となつて出會はない事を「參と商との如し」と言つたのは此の傳説から來たのです。兩星座の概略位置は、オリオンと蝎とは天の正反對側に隔つて居て、同時に地平線上に現れることが殆んどないところから起つた傳説です。



(支那の蒼龍の々々)

蝎座の神話

ローマの詩人オヴィドによれば、巨人獵師オリオンが「天が下の生きとし生けるもので吾れに敵するものはない」と大言を吐いた爲め、女神ヘーラの怒りに觸れ、大地から蝎が跳び出して、オリオンの足を螫して殺してしまつた——その時の蝎であると言はれて居ます。

首星アンターレス 臺北では三十九度の高さに達しますが、大正五年一月奥州平泉で私が見た此の星は、地平線に近くまばたいて居たのを聯想します。この星の直径は太陽の直径の一六〇倍で、實に老大なものです。

蝎座は 輝く星の 數多く 中にもしるき アンタレス星

大火——東西房尾列 前後兩星陳 心作「天王位」 中星是大辰（α星）

房宿——四星知四表 左右且聯驂 房宿主「車駕」 有駟仍有驪

太陽道——中天垂西表 天下仰「輝光」 不識陽環外 何緣作「太陽」

太陰道——房宿右驂右 即呼爲「太陰」 應知三伏節 日月又來臨

東咸星西咸星——東西兩咸列 左右作「雙扉」 知是房之戶 客星相犯稀

罰星——南北三星列 在天爲「罰星」 成章無失正 萬姓是攸寧

心宿——大火知心宿 三星光似烽 無由縫尺布 何世與參逢

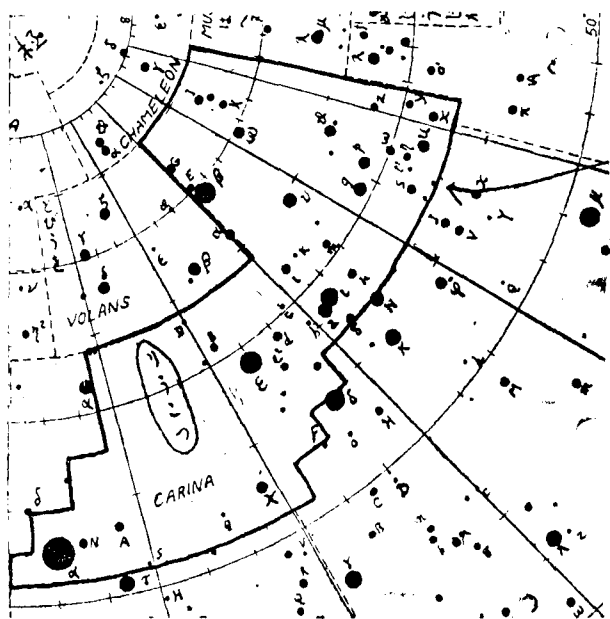
尾宿——河中九星列 彎曲狀如鉤 龍尾伏於日 童謠感「晉侯」

龍骨の星座

アルゴ船座 アルゴは、大星座である爲めに、現今は龍骨、帆、艦、羅針盤の四星座となつて居ます。アルゴ船は、ギリシャの勇士ヤソンが、金毛の羊皮を取りに行つた遠征船アルゴ號に象ぞつた星座です。

首星カノープスは紀元節の頃の宵に地平線近く見えます。支那でいふ南極老人又は老人星、或は壽老人星と云ひます。南中の際にも、我が新潟（北緯三七度五十分）以北では見えません。臺北で十二度、鹿兒島で六度、高知で四度、岡山や大阪で二度半、京都で二度、東京で一度です。日本内地から見える一等星中最南のものです。

龍骨座——商天をわたる小舟の 龍骨座 老人星の名さへめでたし
老人星——曉河廻北國——露滴瑞光新 誰獻南山壽 南天一老人



(座星の骨龍)